東京三高会だより
第27号
平成22年6月1日発行

三木野ヶ原

東京三高会
青森県立
三本木高等学校
同窓会東京支部

発行責任者　佐々木文雄／事務局　〒181-0001 東京都三鷹市井の頭 3-21-13　田制則子方　Tel&Fax 0422-43-7763／編集責任者　佐藤文哉

東京三高会の皆さん、お変わりありませんか？　今年は、新しい会場で皆さんをお迎えします。
創設32年目となる今年、先輩から引き継いだ伝統の上に、より楽しい東京三高会をめざしましょう。
総会・会報に関するご意見や近況を、ぜひお寄せください。

会長メッセージ

第三十二回「東京三高会」に寄せて――
大きな夢の実現はコツコツ、地味な努力から

会長　佐々木文雄（S36年卒）

リーマンショックに端を発した長引く世界的不況、自民党から民主党への政権交代など、日本は今年もまた、経済も政治も混沌とした厳しさの中にあります。

しかし、このような時代だからこそ、個人は自分の自然性と可能性を信じ、地味な努力の積み重ねで乗り換えなければなりません。

物質には、「可燃性」「不燃性」「自燃性」のものがあります。同様に人間にも三つのタイプがあります。何かを成し遂げようとするには、「自ら燃える人」でなければなりません。自ら燃えるためには、自分のしていることを好きになると同時に、明確な目標を持つことが必要です。「自燃性」の人とは、「人から言われたからやる」「命令をされたからやる」のではなく、「言われる前に自分からやる」、積極的な人のことをさします。その人こそが、仕事を好きになれる人です。

仕事において新しいことを成し遂げられる人は、自分の可能性を信じることのできる人です。現在の能力を持って「できる」「できない」を判断してしまっては新しいことや困難なことなどできるはずがありません。人間の能力は、努力し続けることによって無限に広がるのです。何かをしようとするとき、まず「何としても成し遂げたい」という強い願望で努力を続けること、勇気を持って挑戦するという姿勢こそが大切です。

大きな夢や願望をもつ一方で、日々の仕事の中では、一見地味で単純と思われるようなことをしなければなりません。時には、「自分の夢と現実の間には大きな隔たりがある」と感じて思い悩むことがあるでしょう。しかし、どのような分野であっても、偉大なことは最初からできるのではなく、地味な努力の積み重ねがあって、始めてできるということを忘れないで欲しいと思います。

第三十二回「東京三高会」総会、懇親会は七月三日（土）霞ヶ関駅近くの「日本記者クラブ（九階クラブ宴会場）」にて開催します。

今回の特別招待恩師は桜田泰弘先生です。先生は、昭和四十一年卒の三高同窓生で、弘前高校の前校長を勤められました。今回も長谷川光治校長をお迎えしてうかがう母校のお話や、一年ぶりの同窓の皆様との時間が楽しみです。若い人たちも気軽に集える会をめざしています。多数のご参加をお待ちしております。

今年の総会・懇親会は新会場
日本記者クラブ（日本プレスセンタービル）です

東京三高会の更なる発展と、若い世代の参加も期待して、今年から総会会場を変更し、企画も刷新しました。また懇親会会費の減額、新卒後輩の無料招待に取り組みました。これまでご参加の会員のかたにも、フレッシュになった会をお楽しみいただけると思います。

これまでの会場だった秋葉原「万世」さん、ありがとうございました。今度の会場は、日比谷公園の緑の大パノラマが眼下に広がる、最高のロケーションです。どうぞ、お誘いあわせてご参加ください。

第32回東京三高会総会・懇親会

日　時　平成22年7月3日（土）
午後2:15　受付開始
午後2:45～4:30　総会・懇親会

会　場　日本記者クラブ（9階クラブ宴会場）
千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル
東京メトロ・霞ヶ関駅下車2、3分
案内状に記載の地図を参照

電　話　03（3503）2721

会　費　男性、女性とも6,000円
（年会費2,000円含む）
新卒生の皆さんは無料招待

事務局　田制則子（S37年卒）
連絡先は会報表紙上部に記載

★総会欠席会員の方へのお願い
年会費「2,000円」を下記にお振込み願います。
（主に総会会場費・会報制作・発送などの費用です）
郵便振込口座記号・番号
0019-5-362825
「東京三高会」宛

校長メッセージ

もう一つの百周年、新たな世紀に向けて

校長　長谷川光治

昨年度は、青森県高等学校総合体育祭での友情杯（女子の部総合準優勝）獲得、全国ファッション甲子園での県勢初の優勝を筆頭に、スポーツ活動・文化活動での生徒の日頃の努力が実った結果となりました。また、本校では初めて、弘前大医学科に四名の合格者を出すなど、進学実績も確実にのばしました。生徒は、より高い志の自己実現にむけた日々の努力を積み重ねております。

昨年度開始した、「三本木夢と生命の森」事業は、同窓会、後援会はじめ、各団体より御支援をいただき、三〇〇〇本のブナを植樹。三年で一万本の植樹を目標に、今年も三〇〇〇本の植樹を計画しておりますが、十年、二十年、もっと先を見た、森の成長と環境学習を結びつけた学習活動を展開していきたいと考えております。「三本木夢と生命の森」の場所は、おいらせ渓流から、黒石方面に抜けるバイパスで三キロ程の所にあります。十和田湖方面にお出かけのときは、お立ち寄りください。

九月には、昭和二十六年度卒業生の二十数名の方々が来校されました。学校や生徒の様子をご覧になり、「あいさつがよい」「明るく、さわやか」「今どき、こんないい子たちがいる学校が母校で嬉しい」などの、お褒めのことばをくださり、大変励まされました。

さて、三高の歴史は、大正十五年（一九二六年）に設立された、三本木町立三本木実科高等女学校に始まるとされていますが、ルーツは、実科高等女学校の前身であった、三本木小学校裁縫専修科までさかのぼります。明治四十三年（一九一〇年）の設置から数えて、今年は「もう一つの百周年」の記念する年となります。

記念する年に、併設型中高一貫校として四年目をむかえ、附属中学校からの八十名が、高校生となりました。高校段階で本校に入学してきた一六〇名、計二四〇名が高校の一年生となり、彼らの切磋琢磨が、三高の新たな世紀にむけての、発展につながると考えております。

また、文部科学省より、将来の国際的な科学技術系人材を育成する

特別招待恩師

熱血指導に燃えた櫻田泰弘先生（S41年卒）

私と三本木高校

昭和三十八年三月、残雪深い校庭を通り木造二階建て校舎で二日間、九教科の入学試験を受けたのが、三本木高校との始まりです。

団塊世代の第一回生である私達は、俗に薪置き場といわれる一角まで机を並べる程の一クラス五十五人、五クラス編成でした。二年次はテニスコート脇の教室。春特有の強風が運ぶ砂埃に左手で弁当の蓋を押さえ、僅かに開いた隙間からハシを差込み素早く食べた昼食、隙間だらけの部屋に薪ストーブが一個と、豊かさとは全く無縁ながら不自由さを感じない三年間でした。

＊

そして、昭和五十七年に数学教師として赴任した母校は、もと三本木農業高校跡に新築移転された鉄筋校舎でした。以来十九年にわたり後輩達と過ごした日々が、「教師の魅力」を教えてくれました。

それは、朝講習や校外学習を通じて得られた信頼関係でした。

授業では私が休んでも代講や、他の科目に交換が出来ますが、朝講習では代講や交換ができません。ましてや、前夜の家庭学習を早めに終え朝講習へ出席してくる生徒に応えるために、私は絶対に休むことができません。

一方生徒側も、通学の電車やバスは講習に合わせた時刻表ではないので、講習出席のため下宿を始めた者もあり、毎朝保護者から学校や国道のバス停まで送ってもらう者と、保護者の理解と協力なしにはできない取り組みでした。

左手に持参した朝食のおにぎり、右手に鉛筆を持ちひたすら数学問題に取り組む者、家でトイレに行けずついオナラをしてしまう者、身支度する時間が無く髪を乱したままの女生徒、公欠の生徒がテープレコーダーを教卓上に置いていくなど、全員が日々真剣でした。

また、冬期間の朝講習に必要な暖房は、暖まった蒸気が教室にたどり着く頃には講習が終盤となり、寒さに耐えうる体力も必要でした。寒いと発する者はいましたが、それを理由に休む者はいませんでした。

＊

こうした状況下にありながらも、朝講習を三年間継続できたのも、保護者の全面的な支援と、何より生徒が前向きで、互いに真剣勝負の姿勢を持ち続けた結果です。

また、地方で医者不足が叫ばれていた平成十一年に、医学部希望生徒九名を担任と一緒に医療現場の見学会を実施。それは生徒の更なる意識高揚と、小論文・面接に深みを持たせるためで、生徒に大きなインパクトを与えました。

三本木高校の同期で、当時弘前大学医学部助教授の脳神経外科医の蝦名国彦先生にお願いし、某総合病院で実現したものです。執刀中の解頭手術室に案内され、至近距離で頭蓋骨が外された患部を目にしました。見学中、気を失う生徒が出る程の刺激の強い部分もありましたが、見学した生徒の内四人が国立大学医学部に合格、打てば響く三高生の力を強く感じました。

＊

また、目をもっと外へ向けようと、初めて東京大学・早稲田大学見学会を、車中二泊の二泊三日という強行日程で計画、乗務員三人と四十人の生徒とともに東京を目指しました。

東大では重厚な赤門・安田講堂・三四郎池・理三の医学部棟、そして早大では歴史ある大隈講堂と熱気溢れる雰囲気に、歴史の重みと学問の府に魅力を感じて帰省。以後生徒の目の色が変わりました。

このように母校に奉職できた十九年間は、多くの先生方に支えられながらも、生徒と四つに組み合い真剣勝負の中で過ごせたことが、その後の教師生活に大きな力と与え、財産となりました。

市長メッセージ

魅力あふれる元気な十和田市をめざして

十和田市長　小山田　久（S40年卒）

東京三高会の皆様、平素から市政各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、国内経済は世界的な金融危機に端を発する景気の悪化から、将来に向けて明るい展望が見いだせない状況が続いております。一方、地方自治体を取り巻く財政環境も厳しさを増しており、本市におきましても様々な課題が山積している中、その解決に向けて改めて責任の重大さを感じているところであります。

このような中、昨年本市は、国内で二番目となるＷＨＯ（世界保健機関）による「セーフコミュニティ」の認証や、Ｂ級グルメの「十和田バラ焼き」による街の活性化、また、五十人の市民と話し合った「元気づくり会議」では、当市の将来像について多くの提言がなされました。さらに、年末に設立された「ふるさと納税をすすめる会」は、ふるさと納税制度を活用し、中央病院の経営改善に役立てたいとの思いから市民運動として設立されたものでありました。このように市民が互いに力を合わせ、知恵を出し合いながら本市の魅力向上に取り組むことができたことを、大変嬉しく思っております。

＊

さて、今年十二月には、東北新幹線が全線開業いたします。本市では、この開業を誘客促進の絶好の機会ととらえ、十和田湖、奥入瀬渓流はもとより、今春グランドオープンした現代美術館を中心とした野外芸術文化ゾーンなど、あらゆる観光資源を磨き上げ、近隣市町村とも連携を図りながら、滞在型の広域観光を全国発信していきます。

また、ＷＨＯの推奨する安全安心なまちとして、今後も市民及び関係機関と協働し、子どもや高齢者をはじめ、すべての市民が安全で安心して暮らせるような街づくりを推進していきます。

本市の基幹産業である農業では、経営安定に向けた取り組みを着実に実行していかなければならないと考えております。本市で生産される農畜産物については、「奥入瀬の自然が　ギュッ　十和田市逸品」をキャッチフレーズに、ブランド化と販路拡大に努めて参ります。

最新の医療機器を備え昨年六月に完成した市立中央病院については、厳しい経営環境にありますが、市民の生命と健康を守るため、関係者が一丸となって抜本的な改革に取り組み、経営の健全化を図っているところであります。

今後とも市民の誇りとして受け継がれてきた貴重な地域資源を最大限に活用しながら、魅力あふれる元気な十和田市づくりに全力を尽くしてまいりますので、ご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

終わりに、東京三高会のご発展と、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

ることを目指し、理数教育に重点を置いた研究開発を行う「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受けました。これも、新たな世紀にふさわしい事業で、理数科の伝統を受け継ぎ、理数教育の充実発展により、生徒の能力をより高める教育活動を展開していきたいと考えております。

結びに、在校生の指針と励みとなります、東京三高会の皆様の、ますますの御活躍を祈念申し上げ、今後とも、本校教育活動に対しまして、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

十和田がうたう―アートのちから―

十和田市現代美術館 特任館長 小林央子（S60年卒）

「うちにも貼ってよ、水玉」。前衛芸術家草間彌生の展覧会「草間彌生十和田でうたう」ではショーウィンドウの水玉で街全体がひとつの作品に変身したのです。

普段のシャッター通りが、まるでハミングしているかのように楽し気です。

●

「まちが歌うと人が楽しい→人が楽しい街には外の人も来る」

今、十和田は動いています。

2008年に開館した十和田市現代美術館。これまでに国内外から35万人が訪れました。今年4月24日に美術館の向かい側にアート広場がオープンし、私たちの誇りである官庁街通り全体が野外文化芸術ゾーンとして産声をあげました。

オープンの式典には草間彌生さんも登場し私たちを驚かせました。ご高齢で遠出はされないと聞いていましたので、それはそれは嬉しいサプライズ。当日の天気予報は雨。しかし、それを晴れに変えてしまう草間マジックを体験し、街全体のエネルギーが格段に向上した感があります。

●

アートが街にやってきたことで、人々の心のスイッチがONになった場面を私は何度も見ています。

「今までアートなんて関係なかったけれど、最近は美術展に自然に足を運ぶようになった」と細川薬局のおじさん。

「寺山修司と同人誌をやっていた頃を思い出した」と三浦お米屋のおじさん。

「全国各地から来ました人、また作家との出会いが元気の源になっている」と桜田酒店のご夫婦。

そして、母は「作品をみて子供たちが飛び跳ねて歓喜する姿がすばらしい」と。

これはアートの真髄です。

美しいもの、楽しいもの、わくわくするものに出会い素直な感動を味わう。誰もが遺伝子の中に持っている喜びなのです。人は心の中に光のタネを持っていると思うのです。苦しみや悲しみに直面した時でも、このタネを大切に育てていれば、また前に踏み出してもいけるでしょう。

草間彌生さん

旧米澤家具店が町中アート会場に

私は早朝の官庁街通りを歩くのが好きです。アーティストが作った数々のベンチ、アート広場の作品たち、白く凛々しい美術館。超然とした美しさに満ちています。

「今日もまたここで幸せな気分になる人がいるんだな」そう思っただけで、私自身も何ともうれしい気持ちになるのです。

十和田は今、高らかにうたっています。

小林央子さんのブログ　www.yokomotion.com　Twitter@TowadaArtCenter

ふるさとの元気・応援企画 (1)

十和田バラ焼き

バラ焼きを食べて「バラ色の人生を！」

十和田バラ焼きゼミナール学長　江渡信貴（S57年卒）

今、十和田市民は燃えています。そして、私たち「バラ族」も燃えているのです。「バラ族」とは何か？　それは十和田市のソールフード「バラ焼き」をこよなく愛した集団、「十和田バラ焼きゼミナール」のことです。

バラ焼きとは戦後にあみだされ、大量の玉ねぎとバラ肉をしょうゆベースの甘辛いタレでからめ鉄板で焼きしめ食す料理です。

「バラ焼きゼミナール」の始まりは「十和田にはなんもねーな」からでした。商工会議所青年部で滞在型観光を目指し、いろいろ模索していました。市役所主催のワーキングが六回あり、そこでバラ焼きという名前が出、県南独特の食べ物だということがわかったのです。味はうまいし、提供している店も何十件もある。これは面白い!!

観光とはその場所の光を見る。十和田市の光は市民が皆、まちに誇りを持っていること。誇りとは魅力を知り伝えること。「よっしゃ～バラ焼きに特化し徹底的にやろう」となったのです。その当時（今もですが）B-1グランプリが注目をあびていて、事務局が八戸市にあったこともあり相談に。結果、市民団体を作ることになり、大学生・サラリーマン・公務員・経営者などいろんな職種の人間が集まりました。

ベルサイユの薔薇は市民革命。バラ焼きの「バラ」とベルサイユの「薔薇」をかけて、バラ焼きで十和田革命を!!、大のおじさんがド派手なタキシードに身をつつみ、皆さんに笑ってもらえるようなパフォーマンスで、毅然とバラ焼きを鉄板で焼きしめお客様へ提供する。真面目にふざけ、真面目に楽しんでイベント活動を継続的に続けたことで知名度も上がり、各方面のメディアからも注目をあび取材が一〇〇回以上も。昨年十二月の東北B-1グランプリで優勝することができました。

大手コンビニ系での弁当販売も実現。小学生との食育学校、家庭科特別授業、転勤族奥様教室、オフィシャルサイトの運営、バラ焼きマップの作成など活動を広げました。

最終的にバラ焼きを通して、人の繋がりはもちろんのこと地域の農産物を始め十和田市の歴史、文化など、様々な発見に気づき、子供たちや市民の皆様が十和田市をさらに愛する環境作りをしていきたいと思っております。

最後になりますが今年のB-1グランプリ厚木大会が九月十八日十九日と開催されます。バラ焼きゼミナールは入賞？優勝？を狙っています。

ぜひぜひ、皆様の応援お願いします。

旨みを吸い飴色に輝くタマネギ。さぁ、召し上がれ!

▼バラ焼きゼミナールの皆さん

❶バラゼミが監修したバラ焼き弁当498円。ローソン東北6県販売（左）とサークルKサンクス全国版（右）。❷お土産にどうぞ。オリジナル「十和田バラ焼きのタレ」400円。❸十和田を訪れる人への観光ガイド本が一段と充実。上から「ちょこっと」「十和田まちぼん」「ゆるりら、十和田」

バラ焼き告知板

★十和田に帰ったら、東京人は61店舗紹介のバラ焼き食べ歩きMAP（写真）をゲットすべし。充実の内容で現地のバラ焼きにかけるエネルギーが炸裂。
★おいしい「十和田バラ焼きのタレ」発売中。十和田みやげにおすすめ。十和田市出身者の名誉にかけて正しく焼き、家族の受けを狙おう。
★バラ焼きゼミナール認定の鉄板が新発売。鉄板の中心にバラが、そして縁には、あの「バラ色の人生を」の文字の凝るよう。
★バラ焼きフラッグがバッジに。観光部長さんの胸にも光っていたバッジ、実にかわいい。

おいしい「十和田バラ焼き」はこののぼりが目印です！行こうよ、十和田バラ焼き「食べ歩き」。

「バラ焼き」ブログ更新中
http://www.barayaki.com

ふるさと物産応援活動

ふるさとの元気が日本を元気に「東京十和田もみじの会」

当会は、東京十和田会が中心となり、一般社団法人として平成二十一年二月に設立。首都圏での十和田市産品の販路拡大および物産の商取引増進を図り、十和田地場産業の健全な発展に寄与することを目的としています。

昨年の主な活動としては、毎月二回の世田谷区用賀での販売。九月の馬事公苑での「愛馬の日」、十月の「すみだまつり」と「青森人の祭典」に出店と、スタート初年目から積極的に活動しています。当法人は事業に賛同する個人または団体会員を募集しています。ぜひご協力お願いいたします。

「青森人の祭典」。出店団体の中で一番に完売!

「東京十和田もみじの会」のホームページ
http://tokyotowadamomij.web.fc2.comi

三高卒業おめでとう――H22年3月卒のみなさん

村上武蔵くん

私は、青山学院大学に進学しました。

私の高校生活と言えば、一番に部活の事を。ハンドボール部に所属し、毎日の辛い練習を仲間とともに乗り越え、充実した日々を過ごしました。目標としていたインターハイ出場は果たせなかったものの、心から信頼できる仲間に出会えたので三高のハンドボール部に入部して良かったと感じています。

居て当たり前と感じていた仲間や親とも離れ、すべて自分でやらなければならず、特に食生活や時間管理に不安を感じています。しかしそれ以上に勉強、サークル活動、アルバイトなど、やってみたいことへの期待の方が大きいです。

また将来の夢である映画やテレビに関する職に就くために大学生活を充実させ、毎日を親や仲間への感謝の気持ちを忘れずに過ごしたいです。

金田拓之くん

三高時代はバスケットボール部の主将を務めました。チームメイトを率いることの経験から、積極性や責任感を身につけられたと感じています。大学でも、自らの判断による積極的な行動と、それに伴う責任が重要になると思います。自分の長所を生かし、主体的に学び行動したいです。

東京での新生活は希望以上に不安もあります。未知の場所で、親元から離れ、一人暮らしをするのには心配事だらけです。それでもやはり中央大学に進学を決めたのは、「夢」があるからです。私は高い英語力と幅広い知識を持った英語の教師を目指しています。将来、英語を学ぶ楽しさを生徒に伝えられるように、この4年間しっかり学びたいです。

川嶋裕子さん

私は、高校1年の時から志望していた大学に合格し、東京で一人暮らしをスタート。掃除洗濯はもちろん、料理や電気料金の支払いなど、全て自分でやるということが、こんなにも大変なことだとは思いませんでしたが、今、希望に満ちています。全て自分でやるのは、とても大変なことですが、裏を返せば全て自分の意思で決められます。

私にとって、高校時代までの勉強はやりたいものというより、やらなければならないものでした。しかし、大学では、自分の意志でやりたいものを決めてやるものだと思います。私は、この大学生活で勉強を頑張りつつ、バイトなどいろいろ経験して、一人前の大人になる努力をしたいと思います。

野田浩志くん

僕は、東京海洋大学に進学しました。将来は、外航船で航海士として働きたいと考えています。三高では、部活動、三高祭や体育祭などの学校行事、修学旅行などたくさんの思い出ができました。なかでも、テニス部での活動はとても楽しかったです。（でも、僕は弱かったです）

ところで、航海士になるためには、在学中に合計で12ヵ月間、実習船での海洋実習が必要となります。長期間の共同生活には少し不安もありますが、きっと自分にとってプラスになると思います。

たくさんの困難に出会うと思いますが、三高での日々を糧に目標に向かって進みたいです。三高の同窓生の一員として、よろしくお願いします。

「バラ焼き」応援 東京っ子・つぶやきエトセトラ

●「十和田のソールフード」っていうんですか。十和田市出身とはいえ、ほんとは余りにも知らなかった「バラ焼き」。ありがたいことに、ウェブで探すと思ったよりたくさんアップされているのでびっくりです。特に「まるごと青森」のサイトは必見。昨年十二月六日の「B-1グランプリ制覇」のニュースに大喜び！

●今年一月二十四日、十二月の東北新幹線全線開業のプレキャンペーンで表参道が「とことん青森」イベント一色に。行きましたよ、六〇〇名のハネトの「ねぶた」が来るっていうので！バラ焼きゼミナールの皆さんが来てたんですね、残念。うわさのパフォーマンス見たかった。すでに売り切れ店じまい。

●しからば、本場で食べてみるべしと、四月帰郷した際、バラ焼きのキングこと「大昌園」に家族六人で繰り出した。千葉と長崎出身のゲストたちも「おいしい！」「ご飯が進むねぇ」と大満足。姪がひとつだけリクエスト、「出口に消臭スプレーがあるといいな」。私も同意見。

●四月二十三日、草間彌生さんを迎えた現代美術館野外アートゾーンオープンのパーティ会場に「バラ焼き」が。バラ焼きゼミナールの皆さんに出会えて、なんかうれしかった。レセプションのおもてなしフードになっている「バラ焼き」もカッコイイ！

●でもね、広まるほどに恐いこともお起きます。B-1ブームの落とし穴。全国区になったものを集めた「ゴトウチぐるめ食堂」で、固くて冷たい「バラ焼き」に遭遇。おいしく味わってもらうための品質管理を強化すべきかも。思わず十和田っ子の僕は、店長に「本場物は、こんなものじゃない」と言ってしまった。素直にあやまる店長に「頑張れよ」のエールを送って立ち去ったのであります。

都会と十和田を結び付けて故郷を元気にしたい

川嶋綾子　ニンニクラブ発起人

はじめまして、私、（倅）セガレ（※）の川嶋綾子と申します。青森県十和田市のにんにく農家のセガール（※）です。ちなみに、三沢高校を平成十四年に卒業しました。現在、私は、都内でフリーランスのデザイナーをしているものの、十八歳まで育ててくれた十和田市に恩返しをしたい！と思い、十和田市役所や農家の人たちとお話しをし、日本中の〝にんにくLOVE〟な人たちを増やすべく、日本唯一のにんにくのファンクラブである「ニンニクラブ」を結成しました！　今年七月に、飲食店の方をターゲットにした十和田にんにくツアーが実現、都心の飲食店への流通を目指します！

※セガレとは、実家を継ぎずに都内で働く農家の息子（セガレ）、娘（セガール）がはじめた、親孝行、地元孝行ユニットです。

川嶋さんがデザインしたマスコットキャラクター

ニンニクラブ
http://ninnic.jp/
セガレのホームページ
http://www.segare.jp

後輩諸君 やりたいことは何ですか？

堰野端孝之（S59年卒）
建設会社勤務

高校を卒業して二十六年が経ちます。私が高校生の頃は初代ファミコンが出始めた頃で、携帯電話もインターネットもありませんでした。環境のせいにするつもりはないのですが、十和田で育つ中、将来について何のイメージも持てず、ただただ東京に行けば何とかなるという思いで上京しました。

しかし、希望と現実の乖離は大きく、なかなかやりたい事が見えてこないうちに、大学生活が終わって就職しました。ところが、就職した途端意識が変わって、あれもやってみたい、これもやってみたいと、自分の可能性を試したくなりました。失敗も数多くしましたが、学んだことも多かったと思います。何をやっても楽しく一生懸命挑戦できたと思っています。

ご長男さんと一緒の堰野端さん

私の場合は、他の人よりも夢や希望を見つけるのが遅かったのですが、そこで諦めず、やりたいと思ったら何でもトライしてきたつもりです。でもやっぱり若いうちにやっておくべきことってあるなぁ、と痛感させられました。

会社員の私が、「こういう職業を知っていたら、なりたいと思って努力していたかなぁ」と思ったのは大使という職業。海外赴任した際に接してそう感じました。また、本を読んでなりたかったのは、映像カメラマンです。普通の人が行かないような国や地域を紹介する映像を撮る仕事ってとても素晴らしいと思いました。

最近、職業や会社を簡単に変えることができる時代になりましたが、若い人達には、是非早いうちにやりたいことを見つけて欲しいと思います。なりたい大人になるために、準備が必要だからです。将来の自分をイメージできれば、準備も楽しくできるはず。その準備とは、大学で知識を身につけること、就職して技術や経験を積むことや資格を取ることです。

挫折や方向転換は当然あります。でも頑張った結果であれば受け入れられるし、やりたいことを見つければまた頑張れるはずです。そしてそのためには気力とともに体力も必要です。健康にも気をつけて一歩一歩前進してください。

美術部が全ての始まり

高見政良（S42年卒）画家・専門学校講師

北小、三中を経て三高入学、僕らは団塊の世代でやたら生徒数が多く、五十人弱のクラスが六組までありました。

校舎は現在の十和田市民文化センターの所、その頃は賑やかだった街の中心部で、近くに映画館が四、五館あったものです。

僕は農家の長男でゆくゆくは親の跡を継ぐことになっていましたが、母親が不憫に思ったのか、二十九歳までは好きな事をしていいというので、三農ではなく共学の三高に入りました。（笑）

絵を描くのが好きだったこともあり、二年の時友人に誘われて美術部に入り、油絵を始めました。顧問の先生は高齢でほとんど部室に顔を出さず、指導は上級生が主でした。帰省時に寄ってくれる美大受験で浪人中の先輩も、熱心に教えてくれたものです。

入部してからは部室に入り浸って夜中まで居残り、夏休みや冬休みはもちろん日曜祭日も通っていました。三年の時、「校内展」や市中での「三高美術部展」、八戸の「県南美術部連合展」にも参加と、活発でした。

卒業後の進路に悩みましたが、先輩達の影響で東京芸大受験を決めました。

当時は、現役での入試はとんでもない倍率で、一次試験の鉛筆デッサンは通ったものの、二次の木炭デッサンでは部室に無かった大きな石膏像が出題されて、あえなく沈没。

浪人二年目の受験の時母が亡くなり、上京して絵の勉強は続けることになりました。芸大に三浪したのち受験はやめて、美術研究所で知り合った仲間たちと勉強会や展覧会をするようになりました。その後は上野の公募展や個展、グループ展に作品を発表する作家活動を続けました。

一九九九年、共同通信社配信の「かげろうの家」（日本ルポルタージュ大賞受賞）と翌年の「仮面の家」（新聞協会賞受賞）等のイラストレーションを担当しました。

自画像

十和田市での「自薦展」、北小創立四十周年記念壁画『二つの太陽』の寄贈などで、親戚や友人達に喜んでもらうことが出来ました。

その後、「東京デザイナー学院」非常勤講師になり、三鷹市に「STUDIO・t23」という小さなアトリエを開き、今年で十周年、ほとんど毎日先生稼業です。

専門学校ではアニメーターやゲームクリエーター、イラストレーターやデザイナーの卵にデッサン等を教え、アトリエでは現役のプロを相手にしています。

モデルを呼んでのクロッキー会は評判が良く、劇場版「エヴァンゲリオン：破」の副監督・小松田大全氏や「不思議の海のナディア」「イノセンス」の平松禎史氏等のアニメーター、「ハニカム」「花屋敷の住人達」の漫画家・桂明日香さん等、著名な方も参加しています。

今、十和田湖伝説の絵本企画があり、ぜひとも実現させたいと新たな闘志を燃やしています。

世にも不思議な夫婦のおはなし

山田咲千美
山田和正（S55年卒）
衣料品バイヤー

「えっ、むりむり…」即座に私はそう答えた。

結婚二十一年目にして、まさか夫婦の馴れ初めだなんて、しかも活字にするなんてとんでもない。

私たちは十和田市出身者同士の夫婦。それも三高卒の同級生同士。そしてこれまた、夫の上司が三高の大先輩、この会報編集長の佐藤文哉氏という、世にも珍しいカップルである。その佐藤氏からの原稿依頼は、まさに水戸黄門の印籠のようなもの。「頼むよ…。」主人の顔が真顔になっているのを見て私は覚悟を決めた。

＊

主人との出会いはなんと三本木中学校時代に遡る。しかも主人とは中学校の三年間同じクラスというくされ縁なのだ。初め私より小さかった主人はハエの飛ぶ音の真似を得意とする面白い中学生だった。中学校卒業を控えた頃、一本木沢のある同級生の家に皆で押しかけた。その帰り、たまたま主人と私の家が同じ方向ということで、雪の降る夜、一時間近く話をしながら帰路についた。それがきっかけだったような気がする。

前回の総会にそろって出席したお二人

三本木高校に進学してから、私はと言うと三高のブラスバンド部に入り、アルトサックスの攻略に明け暮れた。一風変わった顧問の松沢先生の元、まじめ～に(?!)高校生活を送っていた私に対し、主人ははっきり言って三高の問題児になっていた。ガキ大将みたいに、沢山の仲間と共に、いろいろな見聞（?!）を広めていたようだ。愉快な山田君は、ツッパリの山田君に変身し、当時流行ったリーゼントの髪に、丈の長い学ランの裏地には龍の刺繍が入っていたらしい。

そんな訳で、路線が違った私たちは、お互いの世界で青春を謳歌していた。私たちが本当の意味で向き合ったのは、高校卒業後だった。主人は東京、私は盛岡と、約6年間の遠距離交際の末めでたく（夫婦となれたのは、二人とも、新しいものに対する探究心に欠けていたからだろうか？）結婚したのだ。

ともあれ、私たち夫婦は、故郷である愛する十和田市、そして三本木中、三本木高校の思い出を大切に、これからもずっと、主人はビール片手に、私は、お茶を飲みつつ語り合うことが出来る間は、ずっと夫婦でいられるかなと思う。（咲千美　記）

青森の食をブランド化

坂本真奈美（H2年卒）
管理栄養師

「青森の特産品って何があるんですか？りんごぐらいしか思い浮かばないけど…」この質問を今までに何度受けたでしょうか？

私は、三本木高校を卒業後、静岡の大学へ進学、そして就職は神奈川へ。青森を出て生活をするようになってから、気づけば二十年になりますが、何度も受けたのが先ほどの質問です。

その度に、「魚介類ならほたて、いか、ほっけ、鮭、さば。あと、長いも、ごぼう、にんにくの生産が日本一で、十和田は馬肉の産地だし、最近では地鶏の青森シャモロックがおすすめ。青森シャモロックは全国の数ある地鶏の中で、唯一宮内庁御用達で、いいダシが出て、鍋やスープにおすすめだよ!!」

などと答えながら、「青森ってこんなに美味しいものがあるのに、なんで他の地方の人はそのことを知らないんだろう…。」と寂しい思いをしていました。また、県外に出て初めて、十和田では当たり前にスーパーで手に入ったおいしいものが、他県では手に入らないものが多いことにも気づきました。

おいしいものがたくさんあるんだから、もっとPRしないと!!

青森の、誇るべき数字として、食料自給率が一一九％（平成十九年度）で、全国第四位。

そんな中で、青森の食文化を多くの人に知っていただくために、私ができることはないだろうか？と考え始め、食業界で働いてきた経験を生かし、青森をアピールするために、東京で「居酒屋」立ち上げ、ということを考えています。青森産の食材・加工品を使用することで、青森の産業を活性化し、少しでも青森にお金を落としたい。お店で、青森の観光地をPRして、多くの人に青森に行っていただきたい。そんな想いで、現在準備中です。オープンは新幹線が青森市まで延伸する前までには…。今は、ブログで、十和田・青森について良いところを発信しています。

十和田市現代美術館で開催
岩木 登 写真展「原生の鼓動＋」（S46年卒）

昨年9月1日から13日まで、美術館企画室は、岩木さんの八甲田のパネル65点で埋め尽くされました。

岩木さんは、2009年キヤノンカレンダーを担当、その写真展「原生の鼓動」が全国各地を巡回しました。「ぜひ、ふるさと十和田でも」と願っていましたが、Arts Towada 市民オープンギャラリーに採択され、巡回展の最後を十和田で締めくくることとなりました。

会期12日間の観覧者は6,114名を数え、いまだに原生の自然をたたえた南八甲田、北八甲田に溶け込んでシャッターを切る作品の力強さと美しさに、圧倒されていました。

オープニングレセプションには、小山田市長、三高の長谷川校長をはじめ、各方面のかたがご出席。新渡戸記念館館長の新渡戸明氏、写真家の和田光弘氏からは写真を愛する先輩として暖かいご挨拶がありました。

この写真展のカタログ制作に東京三高会も協力しました。その売り上げの一部を、三高附属中学校の「夢と生命の森プロジェクト」に寄付、また作品の中の一枚が市に寄贈されました。

「僕の作品は、峡谷の風が運んできたものだ。嵐も、美しい風景も、みな山の神様の贈り物。そのきもちを僕は忘れない」という岩木さん。身近すぎて気づかずにいた、ふるさとの自然の恵みを再発見する写真展でした。

上　東京三高会の佐々木会長と小山田市長と岩木さん
下　ギャラリートークで作品の解説

三高の、今

工藤亨一 教諭（S50年卒）

【トピックス】

その1　部活動報告　平成二十一年度も、大変優秀な成績を収めました。〈運動部〉県高校総体で四年ぶり三回目の友情杯獲得。優勝はサッカー女子、ソフトボール。準優勝は弓道男子、少林寺拳法女子。また秋季県新人戦でも三部が準優勝と活躍。附属中学校もハンドボール、ソフトテニス男子団体競技でともに優勝。〈文化部〉美術部が全国高等学校ファッションデザイン選手権で優勝と観客賞。書道部、放送部が高総文祭で優秀賞。また吹奏楽部が青森県各大会で金賞を獲得。文武両道の精神での頑張りが冴えています。

その2「三本木夢と生命の森」プロジェクト報告　平成二十一年三月十一日に本校附属中と三八上北森林管理署は、奥入瀬渓流近隣の国有林を対象地としたプロジェクト協定を締結。昨年度は、六月九日から三日間、各学年一日ずつ、ブナの苗木一〇〇〇本を植樹。今年度からは高校生も参加し、PTA・同窓会の方々と一緒の百年の森作りで、緑を育て生きる力を養います。また、同窓の皆様からの支援「基金」として、平成二十二年二月末までに七一三、五〇〇円の寄付が集まりました。一口一、〇〇〇円でブナ苗木五本分となり、「三本木夢と生命の森基金」口座で承っています。今後も末永いご支援をお願いいたします。

ソフトボールの練習試合。今年も優勝を狙う。（今年5月）

昨年六月の植樹祭
森の成長が楽しみです

プロジェクトへの思いを語る長谷川校長

その3「平成二十二年度　本部同窓会総会・親睦会」のお知らせ　十和田市在住の多くの恩師の方々を招待しています。各学年やクラスの親睦を深める機会となります。昨年度は、東京三高会から多数出席いただきました。今年も帰郷の折には、ぜひご出席を。日時／八月七日(土)午後五時～七時　場所／富士屋グランドホール　会費／四〇〇〇円　連絡先／三高同窓会事務局（電話〇一七六―二三―四一八一）

■東京三高会役員

（任期：平成21年7月～平成23年7月総会まで）

		卒年
名誉会長	下佐　毅	(S28)
顧　問	佐藤　中	(S32)
	野呂　義春	(S32)
相談役	阿部　光成	(S28)
	今　久子	(S28)
	野口　宥子	(S30)
	前川　十志雄	(S31)
	村中　弘	(S32)
	下山　雅章	(S33)
会　長	佐々木　文雄	(S36)
副会長	北川　和子	(S30)
	佐々木　賢明	(S40)
	清水　栄子	(S40)
	高谷　隆二	(S40)
	冨田　俊一	(S43)
理　事	藤本　モミ	(S29)
	五十嵐　明子	(S31)
	漆畑　満	(S34)
	高松　重光	(S36)
	十枝内　泰賢	(S36)
	高坂　忠	(S37)
	田制　則子	(S37)
	長谷　朋子	(S38)
	馬場　洋子	(S38)
	三浦　景子	(S38)
	佐藤　文哉	(S41)
	瀬戸口　玲子	(S41)
	高見　政良	(S42)
	望月　福子	(S42)
	岩木　登	(S46)
	岸　綾子	(S46)
	坂田　俊英	(S55)
会　計	高坂　忠	(S37)
	長谷　朋子	(S38)
監　査	堰野端富志男	(S38)
	野坂　和夫	(H 5)

【三本木高校の生徒数と進学状況】

平成22年３月１日　卒業生

		男	女	計
全日制	普通科	98	93	191
	理数科	24	15	39
計		122	108	230

平成21年度 進学状況（複数校の合格者数含む）

	国公立大学		私立大学	短期大学	
	国立大	公立大		国立	私立
小計	75	30	81	1	6
計	105（実進学）			7	

4年制大学進学者　186 人　78.5%
進学者数　193 人
進学率　81.4%

平成22年度 生徒在籍数（入学者数）

	高校1年	高校2年	高校3年	計
普通科	241	197	191	629
理数科		37	39	76
計	241	234	230	705
クラス数	6	6	6	18

	附中1年	附中2年	附中3年	計
普通科	80	80	78	238
クラス数	2	2	2	6

三本木高校のホームページをぜひご覧ください。
http://www.asn.ed.jp
（青森県教育ネットワーク）からも入れます。
母校の状況、同窓会情報などいろいろ検索できます。

東京三高会事務局より

●一昨年、記念すべき30回の節目を通過した東京三高会。さあ、次なる課題は「どう新しい東京三高会を築くか」ですが、若い世代も加わった今年の理事会は、毎回活発な意見で燃えています。会報作りは会員同士を結ぶ大切な活動。原稿依頼を快くお引き受けくださる方が多いのも、三高卒業生のさすがの伝統です。みな様ありがとうございました。今年は総会・懇親会を新会場、新趣向でいたします。どんな会になるか楽しみですね。

●第9回のファッション甲子園青森県勢で初めて優勝した、三高美術部の山本さん、成瀬さんのペアが、東京コレクションに特別招待されて3月23日に上京。六本木ヒルズで会った二人はキラキラ輝いていました。こんな楽しい時間が持てるのも、同窓会があればこそです。

左から引率の小川先生と成瀬さん、山本さん